

支援が必要な人の思春期・青年期

～困った行動や性など、支援に困難を感じられたときの対応を中心に～

特別支援教育ネット代表
日本LD学会名誉会員
小栗正幸

1

ユニバーサルデザイン

• ユニバーサルデザインの7原則

- 誰にでも公平に使用できる（公平性）
- 使用の自由度が高い（自由度）
- 使い方が簡単ですぐにわかる（単純性）
- 必要な情報がすぐにわかる（明快性）
- 操作ミスや危険につながらない（安全性）
- 無理のない姿勢で楽に使える（省力性）
- 使いやすい空間が確保される（空間性）

(Mace, Ronald, L.)

3

第I部

ユニバーサルデザイン

2

ユニバーサルデザイン化の練習①

- 性器いじりは特別支援学校などでは一定不変の数で生起する困った性行動です。男子に多いですが、ときには女子にも起こります。大抵は家庭内も含め人前で平気にやります。
 - よくやる指導は「それはやめなさい」という制止や禁止です
 - これでも性器いじりは一時的には止まりますが、制止や禁止の指導はネガティブなので、指導された側にネガティブな印象を残します
 - ぜひ、性器いじりをしている子どもの机の上に、そっとあなたの手をそえてください。そうすると子どもは性器いじりをやめ、あなたの方を見ます。そこであなたはニッコリしてグッジョブサインを（👍）
 - すると子どももニヤリとする可能性が高まるので、即時にOKサインを（👍）そうすると子どももニッコリする可能性が高まります

4

ユニバーサルデザイン化の練習②

- これは一体何をやっているのでしょうか
- そうです これは「性器いじりはダメ（やめましょう）」という叱責です ただし言葉（言語プロンプト）は用いず動作で子どもの不適切行動へ介入し 動作（ジェスチャープロンプト）で肯定的な「やり取り」を作っています
- これは 学校の集団場面で生起する不適切行動を制御するための 優れた叱責法になっています
- しかも 叱責に伴ないがちな 支援対象者の反発を予防できる 安全性の高い対処法です
 - ただし止めているだけですから 子どものスキル不足などのニーズに対応した支援が必要になります（これは学校の仕事です）

5

ユニバーサルデザイン化の練習③

- 小遣い指導は家庭内でしか出来ない特別な指導です
- なぜなら 現金を用いないと指導が困難な課題だからです（しかも現金とは 家庭以外で用いてはいけない教材でもあるのです）
- そこで小遣い指導ですが その失敗の多くは 最初の段階から月給制での指導を試みることによって起こります
- 小遣い指導は 日給制→週給制→月給制へと進みましょう（中学生でも週給制が必要な子がけっこういます ときには高校生にも）
 - 小遣帳指導はお年玉から始め 10円以下の突合は許容範囲の原則で！それくらいにしないと 小遣い指導が子どもと親との関係を歪めることがあります
 - 子どもが何か良いことをしたら さらに小遣いを与えるという指導はやめてください→ポイント制を導入すれば大丈夫です

6

ユニバーサルデザイン化の練習④

- 例えば 保護者の財布から無断でお金を持ち出す子がいます
- 愛情欲求不満の子どもに起ると書いてある心理学の本もあります
- たしかに そういうこともあると思いますが この考え方に立つと 対処法が極めて難解なものになりがちです（＊この学説は専門家の落とし穴かも？）
- 実際問題としては「そこに保護者の財布があった」という否定できない事実が誘い水になっている場合が多いのです
- 対処法として一番簡単なことは 保護者の財布を子どもの目の前から消去することです（完ぺきに消してくださいね） そうすると子どもの金銭持ち出し行動は確実に停止します（停止せざるを得ません）

7

ユニバーサルデザイン化の練習⑤

- 家庭内限局性暴力で大切なことは「本当は暴れたくない」と言っている子どもと「暴れてほしくない」と言っている親がいるという 利害一致の事実です
- 家庭内暴力対応は家庭外で行う「家庭内暴力マネジメント会議」から始めましょう
- 場所は学校が最も望ましく 教師は議長兼書記、家族全員の参加が望まれます
- 暴れてはいけません！ ではなく 被害者になる人の緊急避難先を決めます
- 緊急避難先はファミレスのような明るい場所にしましょう
- 子どもの興奮が治まったら それを避難中の家族へ伝える連絡役を決めます
- 避難中の家族が帰宅するのではなく 家族みんなで迎えに行くのがいいでしょう
- ついでに 美味しいジュースをサービスするお楽しみを加えてもいいと思います
- このルールの継続期間の契約 暴力再発時の再開条件も決めておきましょう
- 話し合った結果は議事録にまとめ家族全員がコピーを持ちましょう
- 母子家庭等の場合は 子どもと避難中の家族の連絡法に関する別ルールを

8

第Ⅱ部

対人関係を育てる支援の ユニバーサルデザイン

悩みの構造①

- 日本人は「心」という言葉が好きです
- おそらく この言葉に日本人独特の「情緒」とか「美」を感じるからでしょう
- それは 素晴らしい感性だと思います
- ただ 私のように青少年のトラブル対応に従事している実務家からすると この「心」という言葉によって トラブルの本質が隠されてしまうことを知っていただきたいのです
- その理由はトラブルという事態が多くの場合「心」以前の事象で生起しているからです

9

10

悩みの構造②

- さて トラブルはさておき 私は青少年には悩んでほしいと思っています
- なぜなら 悩むことは青少年の成長を促すからです
- ただし 成長に結び付く悩みには それなりの条件があると思います
- それは Aにするか Bにするか Cにするか・・・という 選択可能性を持った悩み方ができるか否かということです

11

悩みの構造③

- 配慮が必要な青少年には 選択可能性を持たない悩み方をする人が多いことをご存じでしょうか
- つまり AならAしかない 悩んでも 悩んでも 答えはAしか出てこない つまり悩みのエンドレス化に陥りやすい人が多いのです
- おわかりでしょうか 悩むこと（苦しみ）だけが持続する悩み方は 成長を促進するどころか 逆に阻害してしまいます

12

悩みの構造④

- そうすると 何が起こるのでしょうか
- そうです 「自分はダメだ」という悩みの内在化 あるいは「特定の人や社会が悪い」という 悩みの外在化が起こりやすくなるのです
- 前者には自分を害する危うさがあります
- 後者には他人を害する危うさがあります
- そこで留意すべきことは 両者とも「自分を大切にしない行動」を増やしてしまうことです
- それでは もう少し具体的な支援について考えてみましょう

13

対人関係を育てる支援の要点①

- 私は 支援する人・支援される人 分かっている人・分かっていない人 障害のある人・ない人 善人・悪人という 二元論（対概念）から組み立てる支援観は 既に「古い支援（コーチング）のスタイル」になっていると思います
- そう思って周囲を見渡してみると 勝ち組・負け組 男性・女性 裕福・貧困 大国・小国 などなど 私たちは 非生産的な二元論の落とし穴へ陥っていることが いかにも多いことか！！

14

対人関係を育てる支援の要点②

- それでは 私たちがこうした二元論の罠から解放されるためには どのような工夫が必要でしょうか
- その答えは 二元論という対概念をユニバーサルデザインに置き換える対話の手続きを用いることです
- つまり「それは誰にでも起こること」「そんなこと当たり前」という概念へ置き換える手続きなのですが 難しそうですか？
- それではそれを「話の分かる人」「話の分らない人」という対概念を用いて説明してみましょう

15

対人関係を育てる支援の要点③

- 例えば 周囲が自分の思ったように動いてくれているときには 人というものは～たいてい～「話の分かる人」になりやすいということ
- しかし 思ったようにならない状況に直面すると 私たちは誰でも 不安定になり 都合の悪い側面が出てきやすくなるということ
 - 交差点での出会いがしらの交通事故 あの場面では 誰もが「相手が悪い」と思いやすくなる（違いますか？）
 - それは誰にでも起こることなのです

16

第Ⅲ部

生徒指導対応の ユニバーサルデザイン

支援困難な状態への対応①

- うまくいっていないことや 間違っていることを指摘するときには 支援対象者が納得できるように加工して伝えましょう（アサーションです）
 - 興奮しやすい支援対象者への接し方
 - あなたは嫌なことがあるとすぐに興奮すると思われるけど 実は我慢しているときが多いのと違いますか（我慢していてもかまいません） 動機づけの基本は褒めることですが 褒められると・・・
 - 暴言癖のある支援対象者への接し方
 - 「〇〇」、「〇〇」という暴言には 「また心にもないことを」とか
 - 無気力な支援対象者への接し方
 - 何をやっても意味がない 無理 という言葉には 「またまたご謙遜を」とか

17

18

支援困難な状態への対応②

- 周囲から出てくる苦情への対応
 - 支援を行っている と どうしてあの人にだけ特別なことをするのかと苦情を言う人が出てきます そういう人も実は支援を必要としている場合が多いので 支援のサークルに招き入れましょう（これはヤキモチなのです）
 - ただし 招き入れの無理強いは避けましょう
- ここで述べてきたような動機付け方略を 支援対象者への真摯な態度に欠けるやり方だと誤解する人もいますが この支援法にはエビデンスがあります
 - 自己理解が乏しく 動機付けられていない人に 「それはダメ」と指導しても 行動変容は困難なのです

19

支援困難な状態への対応③

- だいたいにおいて 支援が困難な子どもには 素直に自分の非を認めず 言い訳をする子どもが多いものです
- 例えば 「〇〇」、「〇〇」と暴言を吐いた子どもを指導しようとしても 相手が自分のことを無視したので ついカッとなって言っただけだ とか言い張る子はいませんか？
- 例えば 他にも暴言を吐く子はいのに どうして自分だけを叱るのか とか
- 相手も悪いのに どうして自分だけが悪いのか とか

20

支援困難な状態への対応④

- こうした子どもたち どう指導されていますか
- そこで どうしてこんな言い訳が出てくるのか そのメカニズムを考えてみましょう
- それには「その場の事実を認め 謝らねばならない状況を避けたい」という動機が絡んでいる場合が多いものです
- でも私はあの子たちに同情してしまいます
- なぜ私は同情するのでしょうか この点をもう少し説明してみましょう あの子たちは 自分が一方的に謝罪することに納得できないだけなのですが どう思われますか？

21

支援困難な状態への対応⑤

- よろしいですか おおよそ この世で起こるトラブルには（明白な犯罪行為を別にすると）どちらか片方が「一方的に悪い」などという事態の展開は ほぼ起こらないのです
- つまり ここはAさんがBさんの立場に配慮すべきだ ここはBさんがAさんの立場に配慮すべきだ という展開にこそ意味があり 本来の謝罪とは相互の対話そのものなのです
- これに対し 謝罪には社会的儀礼としての意味が伴います
- たしかに 社会的儀礼としての謝罪は大切な「やりとり」だと思いますが 対話より謝罪が強調されると それは反省を阻害する可能性を高めてしまう点にご注意を（不適切行動の危険性が維持される可能性が高まるということです）

22

第Ⅳ部

性行動対応の ユニバーサルデザイン

23

S N S 課題への対応①

- S N Sは 他者とのコミュニケーションのできる人にとってはとても便利な道具なのですが・・・
- 他者とのコミュニケーションに課題のある人がS N Sに触れること それは危険な行為へと転化される可能性があるのです
- それは S N Sでのやり取りを 通常のコミュニケーションだと誤認してしまう人が非常に多いからです
- S N Sが関与するトラブルが多すぎることに これこそが まさに今日的な課題だと私は考えています

24

SNS課題への対応②

- 先生方 ぜひとも 握手することによって お互いの体温が伝わるような関係性 これがコミュニケーションの本質だということを子どもたちに伝えてください
- 小・中・高 そして学年を問わず 学級内をいくつかの班に分け コミュニケーションの本質について「みんなで話し合う機会」を設けてください
- 個別指導を行う前に「みんなとも話したように」と一言伝えられる体制を整えてください そうすることで SNSへのコモンセンスを育てましょう

25

どの子どもにも必要な恋愛対話①

- 恋愛という対人関係
 - 恋愛とは対人関係の中で起こる出来事です
 - 男×女（同性×同性でも同じ）→出会い→対人関係→恋愛
 - 私は この組み立てが出来る人の恋愛はあまり心配しません
 - 出会い→恋愛行動 これは危ない 下手をすると・・・
 - 学級内で対人関係の段階を巡る対話を！
 - 顔見知り→顔を知っている程度の対人関係
 - 友だち→顔見知りを越えた仲間
 - 親友→支えあう関係 悩みを相談しあえる関係
 - 恋愛→支えあい 悩みを相談しあえ 相互に求めあう関係

26

どの子どもにも必要な恋愛対話②

- 恋愛という対人関係（続き）
 - 対人関係が恋愛に至る段階と身体的距離の関係
 - 対人関係には 親密度に対応する段階と 親密さに対応した身体距離の段階がある→腕の長さ 肘の長さ 手の平サイズ
 - 中学生→クラス全体での恋愛対話が必須です
 - 片思いは恋愛関係ではない（恋愛感情の相互共有がない）
 - 恋愛関係→相互が恋愛感情を共有し 恋愛に伴う愛情表現への同意がある対人関係
 - 性行動には社会的責任が伴うので年齢制限がある（子ども同士の恋愛対話には必須のテーマです）

27

どの子どもにも必要な恋愛対話③

- 恋愛という対人関係（続き）
 - 相互の恋愛という関係性には 社会的地位の上下関係や 力の強弱関係は含まれていないという意識の共有がある
 - 恋愛という関係性には 双方どちらかの その日の気分や状態による流動性（変動性）があり 特定の願望 特定の欲求 特定の行動には その日の気分や状態を反映した 変更 停止 再開 があることへの意識の共有がある
 - この 変更 停止 再開 には 双方の確認が必要であることへの意識の共有がある
 - 中学生以上には この程度の知識を持つための機会の提供が望まれるが 言葉の理解力に合わせた支援上の配慮が必要である

28

おわりに

- 私は対話の場面で ここで述べてきた程度の関係性の維持を大切にしています
- その理由は 私の方法論が セラピーでも カウンセリングでもなく サポートだからです
- サポートには ユニバーサルデザインがよく似合います
- そしてユニバーサルデザインとは Positive Behavior Support であり インクルーシブへの出発点なのです
- ご清聴をありがとうございました またお会いしましょう ♡

29



30



31



32

